

天草御所浦ジオパーク 2013年再審査 現地審査報告書

視察委員：佃 栄吉（JGC 委員・産業技術総合研究所）・目代 邦康（現地審査員・自然保護助成基金）・日比野 剛（審査補助員・白山手取川ジオパーク）

期間：2013年11月24 - 25日

主な対応者（所属）：

鶴田謹一（天草市副市長） 井手尾信幸（天草市観光文化部部长） 山越利幸（天草市観光文化
部ジオパーク推進室長） 岩本薫（同・ジオパーク推進室審議員） 崎田博之（同・参事）
平塚幸吉（同・御所浦支所長） 長谷義隆（天草市立御所浦白亜紀資料館長） 廣瀬浩司（同・
学芸員） 鶴飼 宏明（同・学芸員） 鶴岡耕三郎（天草文化協会理事） 三宅啓雅（御所浦ア
일랜드ツーリズム推進協議会） 鶴岡誠也（御所浦ジオツーリズムガイドの会会長） 島田
一良（同・副会長） 吉田尚史（同・ガイド）

天草御所浦ジオパーク推進協議会事務局：山越利幸、岩本薫、崎田博之、廣瀬浩司、鶴飼 宏
明

報道機関：熊本日日新聞社；西日本新聞；NHK；TKU（テレビ熊本）；RKK（熊本放送）；
KAB（熊本朝日放送）

見学地点：御所浦島一周クルージングツアー（恐竜足跡化石、恐竜化石発見地、採石場跡地、白
亜紀の壁） 鳥峠、御所浦白亜紀資料館、牧島（ニガキ化石公園、いりこ製造工場、アンモナ
イト館、ツメレンゲ自生地、すべり面露頭）

現地審査のまとめ

1) ジオサイトと保全

御所浦では、地質学、古生物学の研究が進められているため、適切に地質学的なジオサイトの
指定がなされている。最近工事で新たに出現した露頭なども調査研究を進めた後、公開の方法を
考えるなど、ジオサイトの保全と教育、ツーリズムへの活用について着実な形で検討が加えられ
ている。現在、海上タクシーを利用した島一周クルーズなどが行われているが、今後はさらに、
海という素材をジオパークの中に取り込んで、教育や研究、ツーリズムの場として活用すること
が期待される。

御所浦は、ジオパークになる以前から御所浦白亜紀資料館が設立され「恐竜の島」として地球
科学の研究、教育普及活動が行われてきた地域である。ジオパークの活動を進める中で、露頭や
化石の保全活動に注意がこれまで以上に払われるようになってきている。このジオパークでは、
ジオパークとして地域の地質調査申請の窓口となり、露頭をハンマーでたたかせず落石である岩
石を利用した化石採取場を設置することなどにより化石の盗掘を防ぐ取り組みがなされている。
この取り組みには、住民が不審な人を発見した際には資料館へと連絡を行うような、地域の人たち
の高い保護意識も深く関与している。日本国内で化石や露頭の保全に関する議論が十分行われて
いない中、こういった取り組みを学術誌に投稿し、ジオパークにおける化石、地層の保全につい
ての議論をリードしている。

天草御所浦ジオパークのこれまでの活動の中で、第四紀における海水準変動の影響をうけた地

域の地形発達と暮らしの場の形成や、この島で営まれてきた人々の暮らしを示す歴史遺産や文化的な資源についてはあまり語られてこなかった。今後は、それらの調査・研究を進めて、地形や有形無形の文化遺産などもジオサイトとし、化石などの地質学的なものに限らず、島の歴史を示す様々な事象について学び楽しむことができるジオパークとなっていくことが望まれる。

2) 教育・研究活動

御所浦白亜紀資料館が研究拠点となっている。スタッフの研究能力も高く、地域の地球科学的な知見の蓄積が着実に行われている。恐竜化石の研究に関しては、福井県立恐竜博物館との連携が取られている。

このような研究成果に基づいて、資料館学芸員が地元中学の総合学習へ協力するなど、教育的な活動も積極的に行われている。御所浦という高校進学にともない子供が島外にでていくこの地域において、ジオパークを使って子供に誇れる資源があることを伝えていることは高く評価できる。総合学習などで継続して行えるとよい。

3) 管理組織・運営体制

前回の審査時に指摘されていた管理体制は、推進協議会が天草市教育部局から商工観光課に移され、現在は観光文化部ジオパーク推進室となり強化されている。現在の天草御所浦ジオパークとしての活動継続だけならば問題はないと思われる。ただし、エリアを拡大して天草ジオパーク構想として活動をすすめるためには、さらなる体制強化が必要と思われる。御所浦島の中では、御所浦白亜紀資料館が研究や教育、ジオツーリズムといった諸機能の中心的役割を果たしている。御所浦内の諸機関はジオパークの活動に対して協力的であり連携も進んでおり、教育、研究、ジオツーリズムに関しては運営上大きな問題はないと思われる。ただし、ウェブサイト（後述する英語のサイト）など広報に関しては、不十分な点も目立つため、広報戦略を検討しジオパークとして必要な情報の発信につとめる必要がある。

4) 地域の持続可能な発展とジオツーリズム

御所浦島で以前より取り組んでいるアイランドツーリズムでの修学旅行生の体験ツアーの中に、化石採取体験などジオパークの活動が取り込まれ、地域の観光産業の中でジオパークは重要な役割を果たしている。今後は、参加者がジオパークにきて学んでいる、楽しんでいるという感覚を持てるような見せ方を工夫して、ジオパークとしてのPRを強化することが望まれる。

ジオパーク活動を進める中で、以前には御所浦にはなかったガイド団体が立ち上がり、活動が開始されたことは評価できる。地域住民が認定ガイド制度に積極的に参加し、認定ガイドが増えてきている。特に若い世代も参加しその中心となって活動しているのは大変良い状況といえる。現在、300円という安い金額でジオツアーをしているため、経済的な効果は大きくないが、島の観光の中では、御所浦の価値を高めるものとなっている。ビジターから疑問の声が上がるほど安い料金設定であるため、今後はその金額を検討し、さらに質の高いガイドとなるよう期待したい。

島一周の海上クルーズジオツアーは、この地域住民の交通機関である海上タクシーを利用したものである。船でまわることにより、船の操縦士が地層の案内をし、さらに保全すべき場所のアクセスについてもコントロールすることができている。このツアーは通常では体験できない特別

感のあるもので、このジオパークの楽しさを増す要素となっている。また推進協議会側では、認定ガイド中級以上でないと、船でのジオツアーは行えないようにし、質の保証もしている。海上タクシーの利用者も増え、経済的な効果も上がっている。初期投資をほとんどせず、ジオパークの資源を利用して従来の交通機関に新たな価値を付けたもので、大変良い実践である。

5) 国際対応

予算状況に合わせて立て替えられている現地の看板では、日本語のほか、英語、中国語、ハンダ語での説明が加えられている。また、英語でのパンフレットの作成も行うなど、ジオパークになってから、海外向けの情報発信が徐々に進められてきた。しかし、公式ウェブサイトの英語版はまだつくられておらず、国際対応は不十分である。実際に海外からのビジターが訪れることも想定し、情報発信やジオパーク内での対応など、適切な情報発信を行うことが望まれる。

6) 防災・安全

御所浦で行われるジオツアーでは、これまで修学旅行生を対象としたツアーが行われてきた実績があり、また人数も多くないため、現在のガイドや関係者で十分対応ができています。海上タクシーによるツアーでは、ライフジャケット着用など安全に対する配慮もできています。

7) 前回審査での指摘事項に対する対応状況

御所浦白亜紀資料館の展示入れ替え時に、テーマをもたせた展示にするなど科学的な説明の部分で改善がみられる。看板については、内容の改善がみられるものの、それでも地質学的な説明が主になっているものが多く、一般人の目線でないものが散見される。今後、白亜紀資料館と看板、そしてガイドについて、それぞれの機能を検討し、パンフレットやウェブサイトなども含めジオパーク全体のなかで、どのように情報をつたえるのか検討してもらいたい。

化石、地層の保全については、これまで実践を行いながらそのあり方について検討を加えてきている。今後、さらに国内外の議論をリードできるよう様々な取り組みを進めていきたい。